総合

9割が「地位向上」と回答

有識者100人 観光20年間の総括で

東大TTPU調査

東京大学公共政策大学院交通・観光政策研究ユニット（TTPU）は、政府が「観光立国」を打ちだした2003年以降、約20年の観光の取り組みについて観光有識者100人を対象にアンケート調査を実施し、11日に結果を公表した。有識者の約9割が観光の社会的地位が高まり、日本経済をけん引する存在になったと回答したが、観光立国の推進で豊かな国民生活や住みよい地域が実現できたかについては、賛同する意見が約3割にとどまった。

「住んでよし実現」3割どまり

アンケートは昨年10～12月、政府、観光庁の観光政策に関する会議体の委員経験者をはじめ、経済界、観光業界、行政、国際機関、大学などの関係者に調査票を送付。103人が回答した。

TTPU主催のセミナーが11日に東京都内で開かれ、三重野真代特任准教授が結果を報告。三重野氏は「コロナ後の観光の姿を考えるきっかけにしてほしい」と述べた。

回答結果と記述式の主な意見は次の通り。

①「観光が日本の成長戦略の柱として位置付けられることで、観光の社会的プレゼンスが高まり、日本経済をけん引する存在になったと思うか」

「とても思う」20・8％▽「そう思う」67・3％▽「あまり思わない」5・0％▽「どちらでもない」6・9％

「外国人旅行消費額4・8兆円は、日本3位の輸出産業の地位にまで成長した」「横断的な施策が可能になり、公的支援・補助の対象として認識された」「モノづくりこそが日本経済を支えているとの国民の意識は変わっていない」

②「この20年間の時代の変化に観光産業は変革できたか」

「とても思う」4・0％▽「そう思う」31・7％▽「あまり思わない」33・7％▽「全然思わない」2・0％▽「どちらでもない」28・7％

「変革できたのは一部で、業界全体ではできていない。事業間、地域間の格差は広がっている」「低い参入障壁のため、他業種からの参入事業者や外資系事業者などの後発組が変革を実現しているだけではないか」

③「観光産業は日本の基幹産業になったか」

「とても思う」5・9％▽「そう思う」38・6％▽「あまり思わない」16・8％▽「全然思わない」5・0％▽「どちらでもない」33・7％

「2019年旅行消費総額29・2兆円、その生産波及効果55・8兆円、GDPの約5％を占める規模になっている。雇用創出効果も出ている」「リスクに対する高い脆弱（ぜいじゃく）性や雇用の質（低賃金、離職率の高さ）、人材の不足、リーディングカンパニーの不在から基幹産業とは言えない」

④「観光が地域を活性化できたか」

「とても思う」12・9％▽「そう思う」58・4％▽「あまり思わない」7・9％▽「どちらでもない」20・8％

「人の往来・交流、関係人口の拡大には観光の視点が不可欠という認識が広まった」「地域の格差や濃淡が大きい」「観光客数や消費額の増加などは表面的なもの。域内循環や投資の見返り、旅行者と住民の交流など、経済的、文化的な最終アウトプットの観点では不十分」

⑤「『観光地域経営』の能力が各地域で向上したと思うか」

「とても思う」4・0％▽「そう思う」33・7％▽「あまり思わない」25・7％▽「全然思わない」2・0％▽「どちらでもない」34・7％

「DMOが旗揚げされただけ。組織や体制ができても観光経営の知見を持っていない」「財政、データ、人材の問題が大きい」

⑥「日本のソフトパワーの向上、国際社会での地位向上に観光が貢献できたと思うか」

「とても思う」11・9％▽「そう思う」56・4％▽「あまり思わない」11・9％▽「全然思わない」1・0％▽「どちらでもない」18・8％

⑦「ユニバーサルツーリズムの環境は整えられたと思うか」

「とても思う」1・0％▽「そう思う」14・9％▽「あまり思わない」42・6％▽「全然思わない」4・0％▽「どちらでもない」37・6％

⑧「外国人旅行者の行動を通じ、日本人が自らの文化や地域の価値を再認識し、誇りに思うことにつながったと思うか」

「とても思う」17・8％▽「そう思う」52・5％▽「あまり思わない」6・9％▽「全然思わない」4・0％▽「どちらでもない」18・8％

⑨「観光立国を進めた結果、豊かな国民生活や住みよい地域が実現されたと思うか」

「とても思う」3・7％▽「そう思う」29・6％▽「あまり思わない」4・9％▽「どちらでもない」61・7％

「インバウンドのマイナスの効果よりプラスの効果がはるかに大きい」「地域の魅力が再認識し、意識が高まり、地域の整備が進んだ」「交通インフラの整備が進み、宿泊・飲食施設の雇用が増え、観光の恩恵を受けた地域もあった」「オーバーツーリズムが生じた地域もあれば、予期したほど観光客が集まらなかった地域もある」「いずれの地域も観光で利益を受けている人は喜び、関係ない人からはクレームが出る二極化の傾向にある。観光で地域全体が利益を得ていると住民の大多数が納得できている地域は少ない」

⑩「国民の間に、観光が社会、経済、文化などの観点で国民生活に良い影響を与えるものだという理解が進んだと思うか」

「とても思う」3・0％▽「そう思う」52・0％▽「あまり思わない」14・0％▽「全然思わない」2・0％▽「どちらでもない」29・0％

⑪「国民の間に、観光公害やオーバーツーリズムなど、観光が国民生活に負の影響を与え得るものだという理解が進んだと思うか」

「とても思う」12・5％▽「そう思う」76・3％▽「どちらでもない」11・3％

⑫「各ステークホルダーのこの20年間の取り組みは『持続可能な観光』という観点から十分なものだったと思うか」

国・政府の取り組み＝「とても思う」1・3％▽「そう思う」24・1％▽「あまり思わない」29・1％▽「どちらでもない」45・6％

観光産業界の取り組み＝「とても思う」1・0％▽「そう思う」10・1％▽「あまり思わない」48・5％▽「全然思わない」5・1％▽「どちらでもない」35・4％

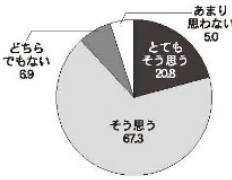
地域・地方自治体の取り組み＝「とても思う」1・0％▽「そう思う」13・1％▽「あまり思わない」41・4％▽「全然思わない」12・1％▽「どちらでもない」32・3％

⑬「『持続可能な観光』の観点から、この20年間の役割分担は適切で、それぞれの役割を果たした上で連携が図られていたと考えるか」

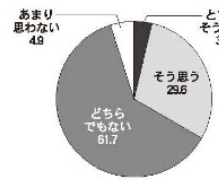
「とても思う」1・0％▽「そう思う」11・1％▽「あまり思わない」46・5％▽「全然思わない」4・0％▽「どちらでもない」37・4％

【向野悟】

観光の社会的プレゼンスが高まり、日本経済をけん引する存在になったと思うか。



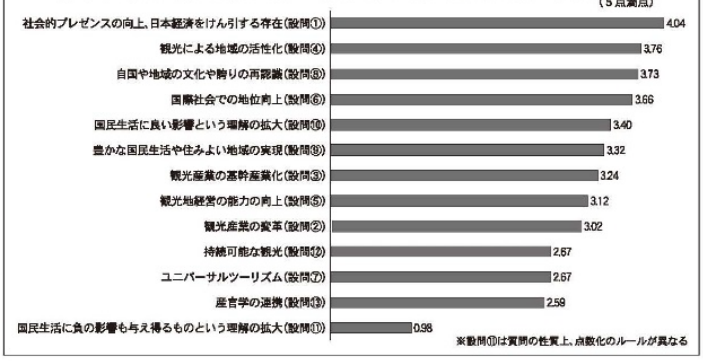
観光立国を進めた結果、豊かな国民生活や住みよい地域が実現されたと思うか。



観光有識者アンケート　設問に対する評価ランキング

東京大学公共政策大学院交通・観光政策研究ユニット調査

設問ごとの評価点（「とても思う」5点～「全然思わない」1点）に回答人数を掛けて点数化した順位（5点満点）



※設問⑪は質問の性質上、点数化のルールが異なる